指導者養成研修事業

幼児期における自然体験活動指導者研修会

1　ねらい

保・幼・小の保育士や教員を目指す学生が、幼児期からの自然体験活動の意義を体験的に理解する中で、自らの資質向上を図る。富山大学・富山福祉短期大学と連携しながら、同時期に開催している幼児キャンプの参加者と直接かかわり合う機会を設け、幼児の自然体験活動推進のための研修を行う。

2　期日

平成３０年１０月１２日（金）～１４日（日）２泊３日

3　対象

保・幼・小の保育士や教員を目指す
　富山大学・富山福祉短期大学の学生

4　参加人数

７３名（富山大学２３名、富山福祉短期大学５０名）

5　講師・スタッフ

金沢大学大学院教職実践研究科　教授　松本　謙一　先生
富山大学人間発達科学部　教授　小林　真　先生
富山大学人間発達科学部　准教授　若山　育代　先生
富山福祉短期大学幼児教育学科　助教　岡野　宏宣　先生
富山福祉短期大学幼児教育学科　助教　藤井　徳子　先生
富山福祉短期大学幼児教育学科　講師　高見　泰子　先生
国立立山青少年自然の家　職員

6　後援

富山県教育委員会、富山県国公立幼稚園・こども園長会
富山県私立幼稚園・認定こども園協会、富山県保育士会

7　日程

	午　前	午　後	夜
10月12日(金) 1日目			開講式 実習：アイスブレイク・星の観察
10月13日(土) 2日目	実習：テーマを基にした遊び体験	実習：子どもの発想を生かした遊びづくり１	講義：指導者の働きかけ 講義：リスクマネジメント
10月14日(日) 3日目	実習：子どもの発想を生かした遊びづくり２	講義：自然体験と教育要領のつながり 閉講式	

8　参加者からの感想

●今までにしたことのない遊びをいろいろと体験できてよかった。普段、自然の中で活動することがほとんどないので、ここでしかできない自然体験を楽しむことができてよかった。
●森や沢の中で、子どもの発想を想定し、グループで協力しながら遊びづくりをしたことは、今後の保育に向け、よい財産となった。
●両大学の学生が、交流を深めながら共に活動したことは、今後の保育への視野を広げる上でよい刺激となった。

9　成果

●今年度は、子どもを楽しませる前に「まず学生自身が自然体験の楽しさを味わう」ことをねらいとしたが、好天の中、ねらいどおり存分に自然体験を楽しめる３日間となった。教員主導の遊び体験から入り、その後、学生が工夫をして遊びづくりをするという実習の流れは、学生の発想を広げる上で有効であった。

10　今後の課題

●　今年度は、研修の中で子どもたちとの交流活動がなくなったことから、両大学の事前説明会の折に、当施設職員からの説明を組み入れなかった。しかし、そのため、学生は環境面への見通しがもてないままの研修となり、遊びづくりの実習では、活動が停滞してしまう状況が生まれた。今後は、事前説明会の折に環境面に関する説明を組み入れる必要がある。